

血液製剤フィブリノゲン投与後、C型肝炎を発症した四百十八人に対し、厚生労働省と製薬会社が事実関係を伝えている。また、代替医療について、製薬会社が保有していた情報の88%が被害を受けた患者個人の特定につながる可能性があったことが判明しました。調査を始めてから二十年間も問題を放置してきた国と製薬会社の姿勢が改めて問われることになりそうです。

薬、食品の持つ抗酸化力などの研究が発達しています。医科大学の約六割で代替医療のリキウムが導入されています。



日本は国際的にも稀な化学療法中心の医療大国ですが、ほとんどの医療機関において、化学薬品の持つ副作用が正しく説明されていません。

それが対して米国では、処方箋の内容は100%開示され、化学薬品ががんの死亡率は、一九六〇年代から急増して

わが国では薬害の心配の前に、米国同様、処方箋の内容が正しく伝えられるよう「処方箋開示法案」が樹立されることを期待します。

自然医学総合研究所所長

大沼 善誉

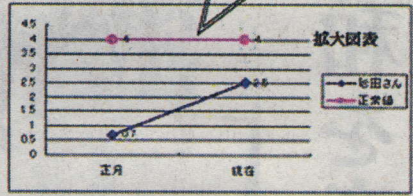
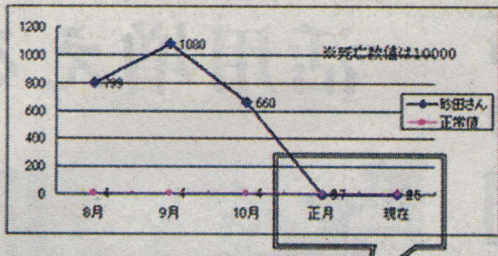
自然治癒を科学する

生活習慣の欧米化が原因の一つと考えられますが、その一方で、検査方法が飛躍的に発達し、早期発見・早期治療が確立されてから死亡率が急激に高くなっているように思えます。

市区町村や職場で実施するがん集団検診の目的は、無症状の人を対象に早期発見し、集団全体の死亡率を減少させることとして実施されています。

しかし、前立腺がんの予防をテーマに国立がんセンターが九月二十七日に開催した講演会において、研究班の中山富雄・大阪府立成人病センター疫学課長

聖マリアンヌ医科大学で男性のPSA数値が3ヶ月後、正常値に戻ったことが確認されたグラフ



がんの盲点 ②

く、治療法の進歩と早期発見の効果を分離できないなどの問題点がある」と説明されました。

予防医学セミナーのお知らせ
 テーマ (1) 午前 「食べ物と血液の関係」
 講師 酒向猛 医学博士
 テーマ (2) 「患者ができる手当て法」
 講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士
 開催日 11月18日(日) 名古屋 市東区ウエルあいち
 時間 10時～16時30分
 会費：会員無料 非会員1000円
 主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
 共催：自然医学総合研究所
 申し込み：自然医学総合研究所 TEL 052・801・7063 まで

密検査として受ける生検も、他のがんの生検に比べて危険性が高いとして、「検診を受ける不利益もある」と報告されました。

平成十四年の八月に、神奈川の大病院で検査を受けた七十二歳の男性は、PSAが正常値(4未満)を遥かに上回る108.0という数値を示したものの、抗がん剤治療を断り、代替療法を続けたところ、三ヶ月後の検査で、PSAが正常値に戻ったことが確認された。

高年齢社会を迎えた日本では、二〇一五年には罹患(りかん)率は、死亡とともに、前立腺がんが全てのがんの中心で正常値の範囲に戻り、残尿感も無く、復職されるほどまで回復されました。

高年齢社会を迎えた日本では、二〇一五年には罹患(りかん)率は、死亡とともに、前立腺がんが全てのがんの中心で正常値(4未満)を遥かに上回る108.0という数値を示したものの、抗がん剤治療を断り、代替療法を続けたところ、三ヶ月後の検査で、PSAが正常値に戻ったことが確認された。

化学博士・平成11年 社会文化功労賞受賞 ナチュラルケアセンター(院長) (毎月、第1木曜日に掲載します)

問い合わせ 電話 052・801・7063 Eメール yoshinori@nrt.ne.jp URL http://www.nrt.ne.jp